



## 2012 最前線!花粉症治療ナウ!!

今年もスギ花粉のシーズンがやって来ました。例年不調がある方には憂鬱な季節(実は、僕もうちの奥さんも花粉症なので憂鬱です(>\_<))です。そこで今回のフジタガンカニュースでは「最近の花粉症治療」について説明をしてみたいと思います。

当たり前のことですが、当院は眼科の診療所です。「目に関する花粉症の治療は？」といえば、勿論「目薬」が基本です。パタノール・ザジテン等の抗ヒスタミン系(便宜的に①とします)の目薬が主力(単剤で副作用が少ないものとしては一番効果が高いです)ですが、症状が強い場合はこれにインタール・ケタス・リザベン・ゼペリン(ゼペリンは「防腐剤に塩化ベンザルコニウムを含まない」「ちょっとしみる」という特徴があります)などのケミカルメディエーター遊離抑制薬(便宜的に②とします)、更に状況に応じてソフトサンティアという薬剤成分を含まない洗浄目的の点眼(便宜的に③とします)を追加します。ここまでの治療には深刻な副作用はありません。そして、ここまでの治療にて症状の改善が不十分な場合に、パピロックミニ・タリムスという免疫抑制薬(便宜上④とします。やや特殊な薬で特にタリムスは価格が高価です)やオドメール・フルメトロン・ビジュアリン・サンテゾーン・リンデロン・オルガドロロンというステロイド薬(便宜上⑤とします)を使用します。ただし、④は長期使用にて感染症をおこす恐れがある事、⑤は長期使用にて感染症と緑内障を発症する恐れがあり(使用直後に必ずおこるわけではありません)、怖がり過ぎる必要はありませんが必要に応じて定期診察を受けながら点眼を使用するという事が前提条件となります。結局、診察と治療への反応を確認しながら①-⑤を組み合わせる使用なのですが、相手がアレルギー反応、特に季節性のスギ花粉症だったりすると目以外の症状も強く出ているケースが多くあります。となると「鼻炎の治療も一緒にしないと、患者さんは快適にならない」という事実があり、飲み薬や点鼻薬を併用して治療することが大切！という事になります。ちなみに一般論として「目の症状」に対して「飲み薬」の効果は低いと考えられています。飲み薬の処方はいくまでも鼻症状とくしゃみ関係の治療ですね…。

さて本題の飲み薬ですが、主に使うのは抗ヒスタミン薬という種類です。一般的な印象として「花粉症の飲み薬は眠くなるからなー」と思われる方が多いのではないのでしょうか？特に第一世代の抗ヒスタミンは「ポララミン」という可愛い名前の薬なのですが、可愛いらしい名前に反して強烈な眠気を起こすことで知られています。そこで第二世代の抗ヒスタミン薬(若干眠気が弱い)という種類が最も使いやすいタイプの飲み薬という事になります。当院では、その第二世代の中でも特に眠気が弱いとされ、使用中も注意すれば車を運転しても可(服用中に自動車の運転を禁止している薬剤もあります)のものを処方するようにしています。代表選手が①アレジオン(一日一回服用)②クラリチン(一日一回服用)③アレグラ(一日二回服用)の三種類。どれも良い薬ですが、一日一回か二回かの違いがあるのでそのあたりは好みで使い分けています。個人的にはアレジオ

ンが好きでよく使いますね。ちなみにアレジオンはいわゆるスイッチOTC化されていて、医師の処方箋が無くても薬局にて薬剤師さんから直接購入することが可能です。当院での診療後に症状が安定した後の利便性(眼科に来なくても薬局で追加処方が購入可能)という面を考えてもアレジオンを使用するのは患者さんにとってのメリットだと思います。ただ、「アレジオンの眠気は弱くて運転可能」とはいえ、眠気が全く無い訳ではありません。車の運転は許可されていますが十分な注意が必要という事は覚えておいていただいた方が良いでしょう。また、余談ですが目薬はザジテンという抗ヒスタミンの点眼が市販されています。アレジオンとザジテンの二つは良い薬と思うので、それを試してから診療所に…というのも一つの方法かもしれません。

これらの治療でも症状が治まらない場合には点鼻薬を使ったり、強い飲み薬を追加したりしますが、その辺はかなり応用編になりますので今回の誌面では割愛させていただきます。また、古典的な花粉症治療薬としてステロイドと抗ヒスタミン薬の合剤にあたる「セレスタミン」という飲み薬があります。年配の患者さんには「私は昔からこれで…」と希望される方も多い(古い薬ですので、御高齢のドクターが処方している事が多いです)のですが、ステロイド系の飲み薬ですから副作用を心配しながら使用(胃潰瘍・骨粗鬆症・生理不順など)する必要があること、抗ヒスタミン成分が第一世代のものなので眠気の副作用がかなり強い事などがあり、最近の第二世代抗ヒスタミンを中心とした治療に変更する方がお勧めではないかと思われるケースが多くあります。ただ昔からの「セレスタミン信者」の患者さんというのには一部に根強く残っていて、我々医療従事者の諸先輩方によって「洗脳」されているので患者さんのことを責めることはできませんが「勇気を持って新しい医療に踏みだしてみると、実はその方が良い」事も多くあるように…僕は思っています。

また、花粉症治療は「我慢すればどうにかなる」ことも多く、僕が「飲み薬もお勧めですよ」とお話しをしても、患者さんから「私は特に(※ズルズルと鼻をススル)必要を(※クシャン!!とくしゃみをする)感じないで(※クシャン!!)一す(※ズルツ)」との返答を頂くことも多くあります。もしかしたら「花粉症で眼科にかかって目薬以外に飲み薬を貰う」という予想外の事態に気分的に対応できないという事もあるのかもしれません。無理強いするわけではありませんが、思い切って7日間程度飲み薬を試してみると劇的に調子が良くなることもあります。思い当たる節がある方は、診察の時に仰って下さい。

今月は以上です。今回の記事が皆様のお役に立てば幸いです<\_>。



携帯サイト用QRコード

<http://www.fujita-ganka.com>

**Fujita Eye Clinic**  
**藤田眼科** 042 (645) 0575